

「日本製」であることの価値



フィンランドに移り住んで早4年が経ちます。最近やっとなら、私が「日本人として生まれたこと」に対し、両親から感謝するようになりました。

日本に住んでいた30年間は、あまりそのようなことを考える機会がありませんでした。もともとは大学の研究者としてこちらに生まれましたが、現在は、セキユリテイナー関連のソフトウェア会社で経理の仕事をしています。

聞くところによると、最近の日本では、教育や育児のシステムについてフィンランドから学ぼうという潮流があるようです。が、こちらフィンランドでは、日本製製品のブランド価値が見直されています。

こちらでスーパーに足を運ぶと、低価格低品質の製品があふれ、適正な値段で高品質なものを探すことが徐々に難しくなっています。そんな中で、どうやらフィンランドの人々は中国製の製品に少し飽きてきたようです。

特に、精密電気製品や車だけでなく、日用品に対しても日本製を買いたいという人々が私の周りに急増しています。これまでに、日本製の電子製品や車は、多くのヨーロッパの消費者を満足させてきたようで、「日本製=高品質」というイメージはすでに定着し、他の分野にも強い影響を与えているようです。

そのため、先日「日本製」にこだわった日用品を扱う会社を、ここオウルで立ち上げました。特に要望が多い分野が、寝具、インテリア、生地、伝統工芸品、キッチン用品、食器、マツサー に関連する用具、そしてアニメ関連商品です。

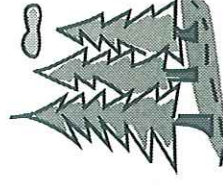
また、こちらの人々はモノを自分で作ることを趣味とする人々が多いため、完成品ではなく手芸やインテリアの材料・素材に對しても多様な需要があります。現在は、具体的に枕と西陣織

の生地の販売を計画中ですが、少しずつでも様々な分野に事業を広げて行こうと考えています。

日本製の製品を売るといふビジネスアイデアは全く新しいものではありませんが、「日本製」であることのブランド価値には、多くの日本の中小企業はあまり目を向けてはいないのではないのでしょうか。または、日本の文化や伝統技術に対する世界での需要は高いにも関わらず、それを中継する人材が不足しているのかもしれない。

少し調べてみると、このような日用品や伝統工芸品の製造会社のほとんどは、日本の関東地方以外の地域にあるようです。

もし、北欧へ販路を拡大されたいと思われている企業の方がこの記事を読まれたら、是非ご一報ください。そして、御社の製品のセールスポイントを我々にアピールしてください。それをもとに、こちらが販売代理店となり「日本製/高品質」というイメージのもと、こちらのデパートや量販店と直接交渉いたします。どうぞお気軽にお問い合わせください。



アブレウ聖子 (フィンランド在住)
Email (office) seiko@codenomicon.com
(home) seikoabreu@gmail.com
住所 Satulavyötie 2 B 7, 90540 Oulu, Finland

私の体験的健康論 (ストレスと健康の関係)

私は自分の歳は数えないことにしていますが、実は今年8月現在で85年10ヶ月も人生を続け、まだ(財)大阪科学技術センターのコンサルタントグループATACの一員としてビジネスの現場に首を突っ込んでいます。講演や原稿書き、同窓会の会長など、結構忙しい毎日を送っています。

人生80年時代となり、定年や引退後、残りの人生をどう生きるかは、個人の考え方で数々の選択肢があります。しかし、何より大切なことは健康状態です。健康状態を左右する一つの要因として、ここでは私の体験に基づくストレスと健康の関係について述べます。

まず、余生の生き方について、大きく分けると仕事と趣味と隠遁の三つに分けられます。

私はこのそれぞれのケースで、どういう健康状態になっていくかを、調べてみると、ストレスが健康状態に関係があることが分かります。これは学者の研究でも明らかです。

仕事をしている人は厳しいビジネス社会の中にいるので、常にある程度のストレスがあり、脳が活性化し続け、健康には良い影響を与えます。

趣味に生きる人の中では何か目標を持って取り組む積極派は適度のストレスがかかり、脳が活性化して生き生きとしていますが、気が向けばやる消極派はストレスがなく本人は楽しいがあま元気がありません。隠遁は全くストレスがないケースが多いので、脳が退化して認知症に近づく傾向がみられます。

何もストレスがない人は、はた目には幸福そうに見えても、本人にとっては不幸です。自らストレスをつくる必要があるのです。

私はストレスを善玉と悪玉に分けています。善玉ストレスとはたとえ何月何日までに完成しなければならぬというストレスで、これは脳を活性化し完成した時の達成感が味わえます。これに対して悪玉ストレスとは不平・不満・心配・不安などで、それ自体では何も解決できず、体の免疫力が低下して、痛などの病気にかかりやすくなると言われているので、健康には害を与えます。

何か心配ごとがあれば、くよくよ悩み続けるのではなく、積極的に行動して解決に努力すれば、逆に善玉ストレスに変わって、達成感が得られ、健康にも良いことです。

結論として、生き方は多種多様でも健康で生き生きとした老後の人生を送るにはストレスという観点からは、

1. 適度の善玉ストレスを持っていくこと。
2. 悪玉ストレスは免疫力を低下させるので、解決に努力すること。
3. ストレスが全くなければ脳が退化するので、自ら善玉ストレスをつくること。

が必要と考えています。



田頭経営研究所
所長 田頭 規夫

＜田頭規夫氏のプロフィール＞

「東京大学ご卒業後、日本スピンドル製造(株)入社。定年後も85才を超えて、今なおビジネスの現場でご活躍されています」

《ベンチャーの申し子、関西の事業再生に挑む》

私は1988年、関西学院大学経済学部を卒業し、日の出の勢いであったリクルート、中でもグループで急成長中であった、デベロッパの(株)リクルートコスモス(現(株)コスモスイニシア)で働く人達の「躍動感」に惹かれ、社会人としての第一歩を踏み出しました。

「ベンチャー」という言葉が今日程ポピュラーではなかった時代ですから、都市銀行や生保に進んだ多くの同級生などは奇異な目で見えていたかもしれませんが、今の仕事の基礎をつくったのは、この「原体験」であったと思っています。

経理部門に配属され、新人ながら店頭市場から東証2部への上場プロジェクトチームの末席で、連日深夜まで仕事をすする日々が続く中、世に言う「リクルート事件」が起こったりもしましたが、「会社が無くなるかも」という危機の中で、ベンチャー・マインド溢れる「スゴイ人」「デキル人」(その多くは起業家になり、上場ベンチャーの創業社長となった人も何人かいます)に囲まれ、様々な経験、特に「現場力」を徹底的に叩き込まれる日々を過ごすことができたわけです。2001年に、リクルートOBで、東京の人工知能技術をベースにしたITベンチャー企業の取締役であった先輩に誘われ、経営企画室長を務めることになり、ここからベンチャー経営により深く関わっていくこととなります。

新興株式市場ができ、ITベンチャーが時代の寵児としてもてはやされていた時代です。経理畑出身とは言え、経験したことのないエクイティファイナンスでの資金調達と、自社製品を売り込んでもらうための事業パートナー(Sier他)開拓(戦略提携)が主な役回りで、3億円超の出資をVCやパートナー企業から受け、戦略提携では大手Sierやネットベンチャーとのアライアンスを確立するなど、個人的には大きな成果を上げることができました。

その後大阪に戻り、今度は、海外自社工場で内装資材を製造・輸入し、外食などのチェーン店本部の統一的な店舗展開を手掛けていく、第二創業企業の取締役管理本部長を2年程務めました。ここでは、財務面では、IPOのための資本政策の見直しと実行(株式移転)をやる必要がありましたが、それよりも、労働集約的な業種であるため、組織づくりと人事整備が大きな課題でした。

在籍した2年間で、年商は15億から30億と2倍になりましたから、当然人材採用とその育成・活用を急ピッチでやる必要があったわけですね。

私の入社時、既に30名程の従業員がおりましたが、人事評価制度も、賃金報酬制度もできておらず、組織拡大のためのインフラは何一つない状況でした。リクルート時代に人事部門は経験しませんでしたでしたが、そこは「人事」に長けた会社でしたから「門前の小僧」で、成長企業の人材採用と組織づくりの「仕掛け」や「引き出し」は豊富にありました。それらをステージに合わせてアレンジし、次々と実行して行っていたわけです。ある意味「実験」をやらせてもらったような日々でしたが、業績が大きく伸びたことで、アーリーからミドルステージへと成長・変革していく企業の組織づくりには、大きな自信を得ることができました。(続く)

オン・ユア・マーク(株)・(株)承継&再生・社会保険労務士
尾鼻 則史

『TMB(1)』「晴れ男の面目をほどくす」

※TMB: ツールドモンブラン(トレッキング): アルプスの最高峰モンブランの周りにあるトレッキングコースで、フランス、イタリア、スイスの3カ国を約150kmにわたって歩くコースのことである。(勿論、スケジュールの都合で途中をクルマで端折って日数調整をすることになる。)

カミさんと二人で、『ツールドモンブラン: 6月21日(出国)~29日(帰国)』に参加してきました。22日(フランス: シャモニー)、足慣らしのために、近くの山「アレヴァン」(2525m)までケールで上り、付近を散策してシャモニーの町に歩いて戻る。この日、一時小雨、その後アラレ。寒い中、霧に取り囲まれて風景も良く見えない中、4、5時間のトレッキングをした。皆な、翌日以降の天候に不安を感じたようだった。

実は私は晴れ男。「私は晴れ男だから大丈夫ですよ」と、皆を元気づけたかった。しかし、もし雨でも降ったら袋叩きに遭い

ねないと思っ、言わないことにした。ところがである。やはり晴れたのである。

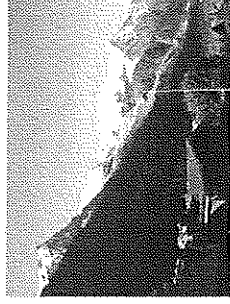
23日~27日の山を歩き続けた5日間。快晴そのものだった。山のことだから、ときに霧が出るくらいの事はあったが、結局レインコートは、寒さシノギに使うことはあっても雨対策としては一度も必要なかった。

シーズンには少し早い時期なので、混雑することもなく快適な山旅が進められた。しかもシーズン前と違いながら、花々は結構咲き乱れていて、高山植物を最高の楽しみにしていたご婦人たちも大満足のようだった。

ガイドも良かったし...。9人の参加メンバーも気持ちよく交流できたし...。最高のトレッキング旅だった。

日ごろの心がけが如何に大切か、ということである。また、TMBなら、混まず快適な6月末のこの時期を心からお勧めする。

<続く>



《写真はシャモニーから見た快晴のモンブラン。中央の小さなコブがモンブランピーク》

藤井 暉彦

「南米旅行記」

ナスカの地上絵は6人乗りのセスナ機に乗って見物します。飛行時間30分ほど。クジラ、幾何学模様、宇宙人、サル、イス、コンドル、クモ、ハチドリ、アルカトラス(?)、パロル(?)、手、木などを順次見ます。上手に飛んでくれるので殆どのは見えませんが、写真に撮るのは難しいです。上のものはまたまよく撮れた「ハチドリ」です。

右の写真は、絵を形作っている線を写したものです。幅が50%程度、深さは10%程度です。この砂漠ではこの程度表層の土を取り除くと色が違ってきます。何れにせよ、地球温暖化などで大雨が降ると消えてしまいかも知れません。これらの絵が描かれた目的も色々と推測されていますが、決定的なものはないようです。紙幅がきましたので以上にしますが、ここに記載したようなことはインターネットを調べるとこの何百倍も詳しく書かれています。しかし、それを何度読んでも実際にそれを見た感激は得られないでしょう。是非、近いうちに旅行計画に組み込まれるようお勧めします。

《完》
長井 俊彦



~VEC関西より~

◆底なしの不況等と言われて、久しいがやがと、底の兆しが見えてきたようです。これから回復の道を歩むのでしょうか、其の先は今までは全く違った世界ではないでしょうか、其の世界、自社の存続のためには新しく生まれ変わっていかねば.....。(本田)

♥先月の初めに台湾(台中→台南→高雄→台北)を回って来ました。新幹線、列車も取り入れ車窓から見えた風景や人々の温かさ、お料理の美味しさに感動し満喫した旅行でした。あれから1ヵ月、台風8号の大きな被害に胸を痛められる思いです。一日も早い復興を祈ります。(濱本)

♣フィナンランド在住のアブレウ聖子さんがこの度起業され、ビジネス情報を求められておられます。尾鼻氏も独立され社会保険労務士・事業承継と再生で経営のサポートをされますので、メッセージを頂きました。お二人のご活躍を期待いたします。(澤村)

◆<交流会>

10月6日(火) りそな銀行 法人ソリューション営業アドバイザー 藤原 明 様

10月26日(月) 日本南京玉すだれ協会 理事 八房 流家元 八房 梅香 様



TEL: 06-6263-0366